



見込顧客の創出
BtoB企業専門のマーケティング支援
株式会社メイテンス

Electronics Solutions Company
KANADEN
株式会社カナデン

生産設備の予知保全をIoTで効率化
https://lp.sukkha.net/
info@sukkha.net
SUUKKHA

この技術が、世界を変える。
この技術で、未来を変える。
change the world. for the future.
HOKUYO
https://www.hokuyo-aut.co.jp/

FA業界掲示板

オートメーション新聞WEB URL付き記事はこちらから→<https://www.automation-news.jp/category/topics/>

■三菱電機、採用事例としてJFE条鋼豊平製造所でのEDGE CROSS活用による予兆保全の事例を公開

三菱電機は、採用事例として電炉メーカーのJFE条鋼豊平製造所でのEDGE CROSS活用による圧延設備の予兆保全の事例を公開した。

JFE条鋼豊平製造所(札幌市)では、生産現場のデータを基にした圧延設備の予兆保全に取り組んでおり、データ収集プラットフォーム「EDGE CROSS」を活用することで、ベンダーやプロトコルに依存しないデータ収集環境を構築し、各種センサからの振動などの情報の長期トレンドから、設備異常を事前に検知することを進めている。収集データはカーボンニュートラル推進にも活用している。

■オムロン、SEMICON Japanで生成AIにより進化した卓球ロボット「フォルフェウス」世界初披露

オムロンは、12月11日から12月13日まで東京ビッグサイトで開催される「SEMICON Japan2024」で、卓球ロボット「フォルフェウス」の最新第9世代を世界初披露する。

最新の第9世代は「人と機械は互いに理解し合うことで、もっと成長できる」をコンセプトに、プレイヤーとのラリーの状況や会話内容、プレイヤーの画像を基に、個人に合わせたより継続できるラリー条件を提案する。今回、この機能を実現するために大規模言語モデル(LLM)を初めて搭載した。

またブースでは、半導体パッケージ内部やEV車や生成AI向けデータセンター実装基板のはんだ付けを検査する、CT型X線自動検査装置を紹介する。

■シュナイダーエレクトリックの半導体産業のバリューチェーン脱炭素化支援にキオクシアが参加

シュナイダーエレクトリックが展開している半導体産業のバリューチェーン脱炭素化支援プログラム「Catalyze」に日本企業として初めてキオクシアが参加した。

Catalyzeは、半導体業界全体でサプライチェーンの炭素排出量に対処することを目的とし、主要な半導体とテクノロジー業界のリーダーが横断的に協力する試みとして2023年7月に発表したもの。インテルやアプライドマテリアルズをはじめ、Google、ASM、HP、Edwards、Ciscoがスポンサーとして参加して

おり、Catalyzeプログラムへの参加企業に対して再生可能エネルギーと低炭素社会に適応したバリューチェーンへの移行加速を支援する。今回キオクシアは、このCatalyzeプログラムに、日本企業として初めてサプライヤーの立場から参加し、既に再生可能エネ

未来のためのIoT
METZ CONNECT
We realize ideas
国内販売輸入総代理店
Rinsconnect 株式会社リンスコネクト

ルギーの購買や市場動向についてのトレーニング受講をスタートしている。

■富士電機、ストーリーズに「電力取引支援システム」の開発メンバー3人のインタビュー公開

富士電機は、製品やサービスの開発の裏側を語るストーリーズに、「電力取引支援システム」の開発を行っているメンバー3人のインタビューを公開した。

電力の取引価格(市場価格)は需給量に応じて変動するため、市場価格を正確に予測し、蓄電池を活用した最適な電力取引計画をつくることができれば、再エネの普及拡大の後押しとなる。同社のプロジェクトチームは、この実現に向けて「電力取引支援システム」の開発を進めている。

■アズビル、NATOサイバー防衛協力センター主催のサイバー防衛演習「ロックド・シールズ2024」参加

アズビルは、総合的なサイバー攻撃への対処能力向上や最新のサイバーセキュリティ動向のさらなる知見を得るため、4月23日から26日に開催されたNATO(北大西洋条約機構)サイバー防衛協力センターが主催するサイバー防衛演習「ロックド・シールズ2024」に参加した。

ロックド・シールズは、世界最大規模のサイバー防衛演習であり、総合的なサイバー攻撃への対処能力を訓練するもの。NATO加盟国を含む約40カ国が参加し、日本からも防衛省・自衛隊をはじめとする関係省庁や民間事業者などが参加しており、同社は2回目の参加となった。

■東芝、技術論文誌「東芝レビュー」最新号を公開 5Gインフラソリューション特集

東芝は、技術論文誌「東芝レビュー」の最新号となるVol.79 No.6(2024年11月)を公開した。

特集は「共生社会を支える5Gインフラソリューション」とし、5Gは社会・業界をまたぐビジネスの創出に寄与する総合的ネットワークインフラとして発展していくことが期待されており、東芝グループでは、全てのユーザーが公平・高速なモバイル環境を享受でき、つながり・支え合う共生社会の実現に向けた5G向けインフラシェアリング装置技術の開発に取り組んでいるとし、それらの技術を紹介している。

■山洋電気、「生産技術エンジニアリングサービス」提供開始

山洋電気は、自社製品や技術を活用したさまざまな自動化装置や生産支援システムを提供し、顧客の生産現場の自動化・効率化を実現を支援する「生産技術エンジニアリングサービス」の提供を開始する。

提供するサービスは、①自動化・省力化のための組立、プレス、搬送装置、ロボットなどの設計・製造、②生産性・品質向上のための生産現場のシステムソリューションで、具体的にはDX化による組立作業支援を実現する生産誘導システムや自動検査装置の設計・製造(画像処理・自動検査装置)、生産現場の制御ソ

フトウエア開発、ネットワーク化などを提供する。

また、③開発の効率化のための金型製作、シミュレーション&データ測定サービスでは、射出成型機用金型の設計・製作、流体シミュレーション、騒音・振動・風量・静圧・加速度などのデータ計測などを提供する。

■アドバンテック、「東京大学フレキシブル医療IT研究会」加盟

アドバンテックは、「東京大学フレキシブル医療IT研究会」に加盟した。同研究会は、東京大学工学系研究科と産業界の連携促進を目的として昭和16年に設立された総合研究奨励会内に設置された研究会で、現在70社以上の企業が加盟している。

同社は、最新のエッジAIコンピューティングを大学の研究に活用できるよう先端の技術開発研究会へ参画し、産産および産学間の技術共創を進めていく。

■コンテック、エッジAIコンピュータ導入事例として名鉄EIエンジニアでの踏切監視システムを公開

コンテックは、エッジAIコンピュータ導入事例として名鉄EIエンジニアでの踏切監視システムのケースを公開した。

名古屋鉄道を中心に近隣の鉄道各社における設備施工・通信システムの開発を行っている名鉄EIエンジニアは、AI画像解析の実績を持つトヨタシステムズ、鉄道機器メーカーの東邦電機工業とプロジェクトチームを組織し、AIによる画像解析を取り入れた踏切監視システムを稼働させた。同システムには同社のエッジAIコンピュータとしてDX-U2200が採用されている。

■ビルツジャパン、産業サイバーセキュリティに関するホワイトペーパー公開

ビルツジャパンは、産業サイバーセキュリティに関するホワイトペーパーを公開した。

ヨーロッパでは、ここ数カ月で機械工学に直接影響を与える包括的な法律文書が多数公表されている。ホワイトペーパーでは、機械メーカーやオペレーターにとって重要なポイントを簡潔に解説し、企業内で産業サイバーセキュリティを確立するための具体的な行動指針と実用的なアドバイスを紹介している。

■明治電機工業、日本最大級のオープンイノベーション拠点「STATION Ai」に入居

明治電機工業は、ソフトバンクの子会社のSTATION Aiが運営するオープンイノベーション拠点「STATION Ai」に入居した。

STATION Aiは、2024年10月に名古屋市鶴舞公園南側に開業した日本最大級のオープンイノベーション拠点で、国内でも屈指の数のパートナー企業とスタートアップが集まる拠点として、スタートアップの事業化支援、オープンイノベーションの推進、スタートアップの資金面での支援を目的としたファンドの運営など、さまざまな取り組みが行われている。

同社はSTATION Aiでの活動を通じ、多くのスタートアップ企業と共に協創し、新たな価値創造・価値提供を目指す。

■NTN、「ベアリングユニットステンレスシリーズ」の特設サイトを公開

NTNは、ベアリングユニットステンレスシリーズを紹介する特設サイトを公開した。同社のベアリングユニットは和歌山製作所で作られており、テークアップ形・狭幅ピロー型の2種類がラインアップに追加され、既存シリーズも新しいサイズを展開し、幅広い用途に対応できるようになっている。

■パトライト、2024年12月で価格改定

パトライトは、2024年12月に5~15%の価格改定を行う。

対象製品と改定率(カッコ内)は、回転灯「RLR、SKH-EA(オプション含む)」(5%)、表示灯「DEB、LFH、NE-A、PFH」(5%)、積層信号灯/積層情報表示灯「HSSST、LS7、LR10、ME、MP、WE、WME/LA6」(5%)、防爆信号灯/防爆表示灯の全製品(5%)、LED照明「CLA、CLK、CLN」(5%)、音・音声合成報知器全製品(10%)、回転灯/信号灯一体型音・音声全製品(10%)、無線・センサ機器「PWS、SC2W、FE20A」(5%)、LED表示ボード全製品(5%)ネットワーク対応製品「NHB、NHV、LA6-POE、LR6-USB、PHC、PHE、PHN、PRSH-WIN01、WE-LAN」(5%)、「NBM」(10%)、端子台全製品(15%)、ニッスイ液面リレー全製品(15%)、操作用・動力用押ボタン開閉器全製品(15%)。価格改定前のまとめ購入は、前年度の平均購入台数の1カ月分を目安とする。

■エムジー、2025年2月1日受注分から価格改定

エムジーは、2025年2月1日受注分から5~10%の価格改定を行う。

対象製品と改定率(カッコ内)は、信号変換器M・UNITシリーズ(約10%)、2線式信号変換器パワーみえ〜シリーズ(約10%)、表示器40シリーズ(約10%)、リモートI/O JCシリーズ(約5%)、ソフトウェア(SCADA) SCADALINXソフトウェア製品、Box型SSPRO(約10%)、テレメータ・WebロガーD3シリーズ(約10%)、無線機器WLシリーズ(約5%)など。

イベントセミナー

■HMS、12月4日にWEBセミナー「Ewonを使ってリモートアクセス」

HMSインダストリアルネットワークは、12月4日に「Ewon製品のWEBセミナー「Ewonを使ってリモートアクセス」を開催する。「Ewon製品を使いこなす」とし、産業用リモートアクセスについて紹介する。

簡単・高速・広帯域 LTE&5G対応 メッシュWi-Fi 産業用ルーター

- ・ ローカル5G
- ・ 産業自動化
- ・ IIoT



by BlackBear TechHive

BlackBear TechHive Japan株式会社
〒東京都千代田区丸の内1-1-3 日本生命丸の内ガーデンタワー3F
☎ 03-4530-3390 ◎ www.atoponline.com/ja



BlackBear TechHive Japan株式会社
東京都千代田区丸の内1-1-3
日本生命丸の内ガーデンタワー3F
03-4530-3390

産業用データダイオード- BIG9000



Your Security is Our Duty

OTサイバーセキュリティのための
堅牢なハードウェアソリューション



www.blackbear-ics.com/ja

制御盤の未来と制御盤DX —設計・製造改革の進め方—

電気設計CAD Eplan採用事例 ヒラノテクシード

Eplanで進める設計業務改革 図面の描画からシステム設計へ設計者の仕事をレベルアップ

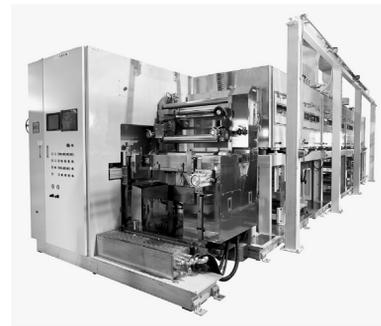
株式会社ヒラノテクシード(奈良県北葛城郡河合町)は、塗工や乾燥、基材搬送に高い技術力を持ち、各種フィルム塗工ラインや電子材料塗工ライン等を製造している産業機械メーカー。近年はEV需要の高まりからEV向けのリチウムイオン電池の電極製造ラインも手がけ、国内外から多くの引き合いが寄せられています。

同社は社内システムの刷新に合わせて電気CADにEplanを採用。世界で最も広く使われているCADであるEplanを軸に、自社の設計業務も世界標準に合わせて自社ルールを整備中。同時に社員のEplan習熟度の向上に力を注ぎ、設計業務の効率化を進めています。

同社の設計部門カスタマーサポート二課課長の杉山勉氏、設計技術部電気設計課課長の植野光善氏、電気設計課二グループ長の瀬戸口文生氏、徳田慶二郎氏に話を聞きました。



左から徳田氏、瀬戸口氏、植野氏、杉山氏



全ての箇所に対して記入漏れやズレがないかをチェックしなければならず、とても大変でした。そこがEplanによって解決しました。

また、自動機能による効率化も感じています。Eplanで回路図を描いた後に、部品表や端子図を自動で生成できるようになりました。手配部門やパネル製作業者から部品表を出力してほしいという依頼がよくあり、今までは都度、要求に応じたExcelを作って渡していました。Eplanになってからは必要箇所を選んで簡単にExcelを出力でき、工数が大きく減りました。

Eplanのサポートの方にやりたいことや困っていることを伝えると、その多くはこの機能を使えばできますよというような形で実現への近道を教えてくれてとても助かっています。機能が豊富で、引き出しが多く、まだ自分たち知らないことを教えてもらっています。

使いこなせる人材を増やし 設計効率化を進める

— 今後について。

まずはEplanにたくさん触れ、使える人と資産を増やしていくことに力を入れていきます。

当社はものづくりの会社であり、機械がメインで、電気部門は人が決まると多くありません。今まで当社の電気設計部門の仕事は、仕様まとめ、図面作成、制御ソフトのプログラミング、現場立ち上げを一貫して同じ人が担当していました。一人で全てをやらなければならないと、負荷が非常に高い状態でした。これは時代的に変えていかなければいけないと思っています。

これからは、各工程を分業して効率化しようと考えています。作図をメインの仕事とする人にはEplanをもっと集中して触って使いこなせるようにしていきたいと思っています。人の手を使わずに、ソフトウェアができることはしてもらおう。全員が最低限でもEplanを使える状態にしながら、その中にはプロフェッショナルもいるという形にしていきたいです。

働き手が減る中で、ムダな作業をなくし、全体では標準化をし、誰でも簡単に設計ができるようにする。効率的に設計ができる仕組みにし、そこから製造連携などにも取り組んでいきたいと考えています。

創業1935年世界有数の塗工装置メーカー

— 御社について。

当社は1935年創業の産業機械メーカーとして、お客さまの用途・要望に応じた機械を受注生産しています。熱交換器や送風機的设计・製造・販売に始まり、熱と風の技術を応用した乾燥機へ展開、材料を均一に塗布して乾燥する技術領域に事業を広げ、今ではコーティングやラミネーティングなどの装置を主力製品として、乾燥・コーティング・ライン制御技術において世界トップクラスの実力を誇っていると自負しています。

大手メーカーからの指定をきっかけに導入

— Eplan導入のきっかけと経緯について。

デジタル化に向け、5・6年前に会社全体のITシステムを刷新することになり、生産管理システムも新しいものを導入することが決まりました。その際、30年近く使ってきた既存の電気CADだとシステム連携が難しく、電気CADも見直すことになりました。その時は別の電気CADを採用したのですが、Eplanも選択肢の一つとして上がっていました。

また、当時は世界的にEV関連の投資が盛んで、欧米でリチウムイオン電池の製造工場が立ち上がったり、増産を進めている時期でした。当社でもリチウムイオン電池の電極製造装置の注文が増え、例えばPLCは指定でシーメンス製となっているなど、こ

れまでとは異なる海外仕様的设计が求められる案件が目立ってきていました。

そんな状況の中、ある海外のお客さまから、電気CADはEplanを使いなさいという指示があり、再びEplanを検討しました。選定する過程でEplanは世界ではスタンダードで使われている有力な電気CADであることを知って興味が高まりましたが、その時の注文は単発だったのでEplanの正式採用は見送り、Eplanで設計できるパートナー企業に仕事をまかせることにしました。

そうしたらその後、また別の海外大手のお客さまから電気CADはEplan指定でという注文が入りました。その時に、これだけ需要があるなら自分たちもEplanを使った方が良く、社内でEplanが使えれば外注費も抑えられると思い、ここで初めてEplanの正式採用が決まりました。

— 二転三転しましたね

しかしEplanの採用によって、昔から使っている既存の電気CAD、新規採用した別の電気CAD、特別なお客さま用のEplanということで、一つの社内で3種類のCADを併用するという状況になってしまいました。そこで、再び電気CADを整理することにしました。

その際、欧米を含む海外ユーザーの仕事が増えてきたこと、実際に現場で電気CADを使っている設計部門にアンケートを取ったところ、Eplanが高評価だったことから、社内の電気設計は既存の電気CADとEplanを併用していくこととし、特にEplanを軸にする方向へかじを切るようになりました。

単なる作図から情報を積み上げていく設計へ

— Eplanの操作にはすぐ慣れることができましたか？

新規採用した別の電気CADがEplanと同じく情報を積み上げていくCADだったので、抵抗感なく移行できました。

Eplanを軸にするといっても、実際はこれまでに既存の電気CADで描いた図面の資産があり、それをEplanで作図していくところから始めました。一から装置を設計するのではなかったのがEplanでどう描くのが良いのかに集中ができ、結果としてそれが使い慣れるための近道になったと思います。

— Eplanと既存の電気CADで違ったこと、変わったことはありましたか？

既存の電気CADは、ショートカットキーなどを使い、各人が頭の中にあるものを自由に図面に落とし込み、まさに設計者が「絵を描く」ようなものでした。製品や電線の太さなどの付加情報はいつでも好きなタイミングで付け加えることができました。

それに対してEplanの場合、いろいろな機能を使いながら、部品を置き、情報を付加し、次の部品に行くといったように、手順通りに作業を進め、システムを構築していくような形でした。自分の好きなように図面を描いていたものから、ちゃんと手順を踏んでいかないと前に進まないやり方になり、初めは戸惑いました。しかし、若いメンバーが多いチームなので、新しいことにチャレンジすることに抵抗はないようです。

今はEplanのそうした仕組み化された図面の作り方を生かし、これまで属人化してバラバラだった設計から、会社として誰でも均一に設計ができるようなやり方に変えようと社内ルール、社内標準の整備を進めています。今までの良いところを残しつつ、Eplanの機能を使っていくようなものを考えています。

Eplanの導入効果

— Eplanを導入した効果をどう感じていますか。

設計工数で考えたら大きく変わってないと思いますが、細かなところではいろいろと良い効果が出ています。便利な機能がたくさんあり、とても助かっています。

例えば、検図はとても楽になりました。Eplanの場合、図面を作る際に必ず情報も追記していかなければいけないので、図面の記載内容と情報が全てひもついています。変更した際も全て反映されるので、外形図と回路図、部品表にズレも起きないようになっています。だから図面を作る側のミスも減ったし、チェックする側としても、見なければいけないところを絞ることができ、とても効率的にできるようになりました。

他の電気CADの場合は、それが連動していないので

<https://www.hirano-tec.co.jp/>



EPLAN
efficient engineering.

設計から製造まで データがつながる

電気設計CAD EPLAN

EPLAN株式会社
横浜市港北区新横浜2-5-11
045-274-7904
www.eplanjapan.jp



PROZESSBERATUNG

ENGINEERING-SOFTWARE

IMPLEMENTIERUNG

GLOBAL SUPPORT

FRIEDHELM LOH GROUP

工場新設・増設、設備投資情報

オートメーション新聞WEB URL付き記事はこちらから→<https://www.automation-news.jp/category/factory/>

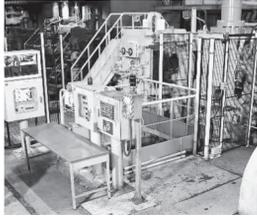
国内

■愛知製鋼、愛知県東海市の知多工場のステンレス形鋼圧延ラインを増強

愛知製鋼は、愛知県東海市の知多工場のステンレス形鋼圧延ラインを増強する。同社は、2026年度までにステンレス鋼材の供給能力を2019年度比で4割増強(9万トン/年体制)を目指しており、上流側の製鋼工程から下流側の酸洗・検査工程まで工程スルーでの製造プロセス改革を3ステップに分けて計画的に実施している。第1ステップとしてステンレス鋼用電気炉「50ト溶解炉(1号電気炉)」の炉殻および制御システ

ムの更新が完了し、今回は第2ステップとして、約12億円を投じて知多工場の形鋼圧延ラインの増強とIoT基盤の構築を実施した。これにより知多工場の形鋼圧延ラインの生産可能寸法を拡大し、刈谷工場で生産していた形鋼の一部を知多工場に生産移管することで、生産負荷の最適配分による15%の生産能力向上(7万3000トン/年)を実現。また、センサやカメラなどの各種計測機器を導入し、暗黙知の形式知化、トレーサビリティ強化による品質向上にも

PICK UP



取り組んだ。第3ステップは2026年に精整工程で予定しており、設備増強と整流化を進める予定。

台の自社開発などで組み立て時間を大幅に短縮し、カーボンゼロファクトリーに向けて太陽光パネルを屋根全面に設置している。延床面積は約8500平方メートル。鉄骨造地上2階建て、総工費約40億円。2026年2月に竣工し、2026年6月に稼働開始を予定している。

■内外テック、岩手県奥州市に半導体製造装置製造の新工場用地を取得

内外テックは、岩手県奥州市の江刺フロンティアパークIIに、半導体製造装置の開発・生産強化のための新工場を建設する。同社は、子会社で半導体製造装置の組み立てなどを手がける内外エレクトロニクスが江刺事業所を新設するなど、岩手県奥州市で設備投資を進めてきた。今回さらに江刺事業所が所在する工業団地に隣接する新たな工業団地(江刺フロンティアパークII)に、開発・生産強化のための工場用地を取得する。土地面積は1万6433平方メートル。

■三菱ケミカル、岐阜県大垣市の中日本事業所大垣地区でOPLフィルム生産設備を増設

三菱ケミカルグループは、光学用ポリビニルアルコール(PVOH)フィルム「OPLフィルム」の生産設備を、中日本事業所大垣(神田)地区(岐阜県大垣市)で増設する。2027年度下期の稼働を目指す。OPLフィルムは、主にテレビなどの液晶ディスプレイ用偏光板に使用され、液晶ディスプレイの画面サイズの大規模化に伴って需要も拡大している。今回増設する生産設備は、高品質要求への対応に加え、高い生産性が特長で、1系列としてはグループ最大の生産能力2700万平方メートル/年を有する。完成後の同社グループの合計生産能力は1万5400万平方メートル/年となる予定。

■アイリスオーヤマ、京都府舞鶴市に飲料水の生産・物流拠点となる舞鶴工場を新設

アイリスオーヤマは、京都府舞鶴市の高野由里工場用地の土地を取得し、関西地域初となる飲料水の生産・物流拠点「アイリスオーヤマ舞鶴工場」を新設する。竣工予定時期は2026年半ば。舞鶴工場は、関西圏初の飲料水の製造物流拠点として天然水の生産設備を導入し、災害発生時でも、関西圏を中心とした西日本の各地に飲料水などの物資を迅速かつ円滑に提供できる体制の中心的存在を担う。総投資額は140億円。敷地面積は5万2713平方メートル。

■エア・ウォーター、北海道石狩市の石狩第2工場LNGトレーラーの製造能力を1.5倍に拡大

エア・ウォーターグループのエア・ウォーター北海道・産業ガスは、北海道石狩市の石狩第2工場を建設し、液化天然ガス(LNG)のトレーラー生産能力を従来比1.5倍の年間60台に拡大する。2025年4月から建設を開始し、12月に稼働開始を予定。敷地面積は2万4180平方メートル。

■日星電気、静岡県浜松市中央区にフッ素チューブやケーブルなど製造の三方原工場を新設

日星電気は、静岡県浜松市中央区にフッ素チューブやケーブルなどを製造する三方原工場を新設する。

産設備の導入を進めている。LiB再生処理にかかる環境負荷(CO₂排出・廃棄物など)を大幅に低減させつつ、高い回収率を達成する独自工程の開発はすでに成功しており、この工程をいわき工場に導入するためには大規模な追加設備投資が必要であると判断し、投資総額を約22億円から約70億円へと増額する。2026年中竣工予定。2026年中稼働開始予定。

■西部電機、福岡県古賀市にワイヤ放電加工機を製造する新精密工場兼事務所棟が竣工

西部電機は、福岡県古賀市の本社敷地内にワイヤ放電加工機を製造する新精密工場兼事務所棟を竣工した。中国やASEAN諸国でスマートフォンや電子部品、電気自動車関連の生産増や半導体市場の成長に伴ってワイヤ放電加工機に対する需要も高い水準で推移している。新工場では、1階にワイヤ放電加工機の製造ラインを構築し、製造プロセスのデジタル化や無人搬送機などの導入により、生産能力は月産80~90台から約1.5倍の120台に向上する見込み。さらに設備の高効率化によるCO₂排出量の低減に加え、太陽光発電によるグリーンエネルギーを導入するなど、カーボンニュートラルの実現に向けても積極的に取り組んでいく。地上3階建ての鉄骨造で、延床面積は1万1707平方メートル、建築面積は6209平方メートル。

■アイコアルファ、愛知県稲沢市に省力機械「ラクラクハンド」の新工場建設

アイコアルファは、愛知県稲沢市に省力機械「ラクラクハンド」の製造開発・営業の拠点となる新工場を建設する。ラクラクハンドは物流・製造などの業界の課題である重労働などを軽減するための助力装置で、近年、特に職場の作業環境改善・安全性向上のためのニーズが拡大している。開発・製造・販売を担当するRH事業部の現工場(愛知県一宮市萩原)の老朽化に伴い、他事業部・本社と同じ稲沢市祖父江町内に新工場を建設し全面移転する。新工場では、専用昇降クレーンの導入や組み立て架

■三菱ケミカル、北九州市の九州事業所で半導体向け超純水製造用イオン交換樹脂の生産能力増強

三菱ケミカルグループは、半導体の製造工程に使用される超純水製造用のイオン交換樹脂について、九州事業所・福岡地区(福岡県北九州市)の生産能力を増強する。2026年4月の稼働を目指す。イオン交換樹脂は、水からイオン状の不純物を選択的に除去・回収する機能を持ち、水処理分野で使用される合成樹脂。軟水や純水などの工業用水の製造、医薬・食品の精製、半導体向け超純水の製造など幅広い用途で使われている。近年の半導体市場の拡大に伴って半導体の製造工程で使用する超純水製造用のイオン交換樹脂の需要も増加しており、同社のイオン交換樹脂は半導体の洗浄工程などよりクリーンさが求められる超純水の製造に適していることから今回の増強を決定した。九州事業所・福岡地区の既存設備のうち、精製を行う再生系設備を増強する。

■アサカ理研、いわき工場のリチウムイオン電池の再生のための設備投資に70億円を増額

アサカ理研は、福島県いわき市のいわき工場、リチウムイオン電池再生のための設備投資に70億円を増額する。同社では持続可能な循環型社会の実現を目指し、リチウムイオン電池(LiB)再生の事業化に取り組んでいる。廃棄されたLiBに含まれるリチウム(Li)、コバルト(Co)、ニッケル(Ni)、マンガン(Mn)などのレアメタルを回収・再生し、再び原料として安定的に供給する「LiBtoLiB」(水平リサイクル)の実現を目指し、福島県いわき市にいわき工場を増設し量

Fukunishi

人・技術・情報の架け橋となり、最適解で「福」あふれる未来をつくる。

福西電機株式会社

2026年春の竣工を目指す。フッ素チューブ、ケーブルはライフサイエンス、半導体、FA、分析などの成長産業で需要が拡大しており、生産能力の増強と開発・試験体制の基盤強化を図る。自動化設備の積極活用により生産性を向上させ、製品を安定的に量産できる生産体制の構築を行い、顧客ニーズに対応する新技術の開発スピードを上げ、さまざまな品質要求に対応できる生産体制確保を目指す。敷地面積は約4万6000平方メートル。建屋は鉄骨造3階建て。延べ床面積は約2万平方メートル。2024年12月着工予定。2026年夏竣工予定。2026年秋稼働予定。

■萩原工業、岡山県笠岡市の笠岡工場が本格稼働

萩原工業は、笠岡工場(岡山県笠岡市港町)の本格稼働を開始した。2023年5月の工場新設後、全ての設備移設が2024年8月に完了して本格稼働を開始。シート製品の加工に必要な機能を本工場内の生産ラインでワンストップ化することで、生産効率化・生産能力増強・加工工程の強化が実現し、多種多様なシート製品の製造および短納期化が可能となった。今後、コーティング工程も笠岡工場での稼働開始を計画し、これによりシート製品の生産が3拠点体制から2拠点体制に再編することとなる。敷地面積は約11万4472平方メートル。延床面積は約2万3000平方メートル。投資額は約66億円。

海外

■明治、アメリカの菓子製造のサンタアナ工場に約41億円投資

明治は、グループ会社のメイジ・アメリカのサンタアナ工場を増設し、ビスケット「ハローパンダ」を増産する。「ハローパンダ」は、アメリカでは1990年代より販売を開始し、2015年からアメリカにて生産を行っており、2017年以降、アメリカでの売り上げが約3倍に拡大。需要拡大に対応するため、約2800万ドル(約41億円)を投資し、「ハローパンダ」の生産能力の増強を進める。2026年度までに2023年度比で約1.5倍の売り上げを目指す。

■長谷川香料、マレーシアに食品香料の新工場建設

長谷川香料は、マレーシアのグループ会社T HASEGAWA FLAVOURS (KUALA LUMPUR) SDN.BHD.に増資し、新工場を建設する。今後、中長期的に安定した市場拡大が期待できるアジア市場・ハラル市場において、現地需要拡大に対応した生産能力の拡大に対応するため、マレーシアのエンステック工業団地に生産拠点を建設する。新工場の敷地面積は約4万8300平方メートル。投資予定額は約59億2000万円。2026年12月稼働予定。

Just in your products
Just Products

挑戦する盤メーカーをサポートする会社

コスト、生産性、脱炭素。それだけにどまらない、鋼バー加工の外注化のメリットをお伝えします。

株式会社ジャストプロダクツ

ボッシュ レックスロスの標準コンベア

TS 2plus (パレット式コンベア)



コンベア上で 240kg までのアキュムレーションが可能
高い停止位置精度(±0.05mm)
パレット上での組み立て作業を可能とする高耐荷重

VarioFlow plus (プラスチックチェーンコンベア)



自社製オリジナルコンベア
20年以上に渡る経験と実績
グローバルな供給網

カタログ品のラインナップはこちらより→



製品に関するお問い合わせ先: 045-605-3028

ボッシュ・レックスロス株式会社

弊社はボッシュグループの産業機器テクノロジーを担っています。

rexroth

A Bosch Company